

令和元年度 第1回スポーツ推進審議会

日 時：令和元年10月4日（金）13時30分～
場 所：荘島体育館会議室

1 新委員紹介

2 会長あいさつ

3 議 事

- (1) 平成30年度実績報告及び令和元年度事業計画について
- (2) 久留米市スポーツ振興基本計画の総括について（別紙資料1）
- (3) 次期計画の策定について
 - ①久留米市教育委員会からの諮問について
 - ②久留米市スポーツ推進計画の策定について

4 その他

久留米市スポーツ推進審議会委員

令和元年7月1日 現在

区 分	氏 名	所 属	
学識経験者	ミツゾノ リョウイチ 満園 良一	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科教授	会長
	ホリ ヒデユキ 堀 秀行	保健医療経営大学 理事兼事務局長	
	アライ マミ 新井 真実	久留米信愛女学院短期大学 講師	
市議会	モリサキ マサキ 森崎 巨樹	久留米市議会議員	※
	トドロキ テルタカ 轟 照隆	久留米市議会議員	
	ナカムラ ヒロトシ 中村 博俊	久留米市議会議員	
学校体育	バ バツノ トシユキ 馬場園 俊之	久留米市中学校体育連盟会長	※
	イワキ キミコ 岩城 紀美子	篠山小学校教諭	
関係団体等	ナカムラ トシハル 中村 敏治	久留米市野球連盟理事長	
	オオトモ クニヨ 大友 久仁子	久留米市剣道連盟事務局	
	タナカ タカコ 田中 太嘉子	久留米市カヌー協会理事	
	ナカムラ トモミ 中村 智美	総合型地域スポーツクラブクラブマネージャー	
	サトウ ミツヨシ 佐藤 光義	(公財) 久留米市体育協会常務理事兼事務局長	
その他市長が特に必要と認めた者	イ デ ヒロシ 井手 浩	障害者スポーツ指導員	副会長
	タカマツ ノブコ 高松 信子	久留米市スポーツ推進委員連絡協議会副会長	
	コ ガ キミコ 古賀 喜美子	久留米市スポーツ推進委員連絡協議会	
	マツフジ ノリコ 松藤 倫子	健康運動指導士	
	ミヤハラ ヨシハル 宮原 義治	久留米市市民文化部長	

○委員の任期は令和元年12月31日まで。

※は新委員。

(1) 平成30年度実績報告及び令和元年度事業計画について

I 市民が躍動できる生涯スポーツ振興体制の整備・充実

A 住民ニーズに即応したスポーツ組織の改善・充実

総合的・効果的に市民スポーツを推進するため、市体育協会や競技団体、総合型クラブ等との連携・協力を図る。

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>①公益財団法人久留米市体育協会との連携</p> <p>久留米市体育協会を通じて同協会の加盟競技団体の育成・支援を行い、加盟団体を主体として各種競技大会を開催することで、競技スポーツの振興を図った。また、九州大会・全国大会に出場する個人及び団体に対し奨励金を交付することで、競技者・競技団体の意欲喚起を図った。</p> <p>※大会出場奨励金 申請件数 213件、人数 1,110人、金額 5,914千円</p> <p>②スポーツ推進委員・総合型クラブとの連携</p> <p>市の各種スポーツ事業において、<u>スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブとの連携を図った。</u></p> <p>○従事協力イベント（11事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の事業に対し、延べ364人が従事。 <ol style="list-style-type: none"> ①つつじマーチ、②紫灘旗全国高校遠的弓道大会、 ③クロスロードスポーツ・レクリエーション祭、 ④久留米オリンピック、⑤久留米ロードレース ⑥県民体育大会市町村対抗福岡駅伝 ⑦久留米市少年健全育成駅伝大会、 ⑧久留米つばきカップTT、⑨タレント発掘事業、 ⑩ユー・エス・イー・カップ国際女子テニス大会、 ⑪Eボートフェスティバル <p>③スポーツ推進委員数（平成31年3月31日現在）</p> <p>112名（定員113名） 日吉校区1名が欠員。</p> <p>④スポーツ少年団</p> <p><u>スポーツ少年団の普及（登録促進）と育成及び活動の活性化を図り、青少年のスポーツを振興し、心身の健全な育成に資することを目的に活動した。</u></p> <p>○スポーツ少年団登録状況（52団、団員948名、指導者214名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修会の実施（団員37名、指導者4名参加） ・スポーツテストの実施（3地区、160名参加） ・スポーツリーダー養成講習会の開催（19名参加） ・各種大会、教室及び交流事業の実施 <p>⑤三潴・城島地域の体育施設の指定管理（4年目）</p> <p>《指定管理者》 九州ビルサービス・シンコースポーツ共同体</p> <p>《管理施設》 みづま総合体育館、三潴農業者トレーニングセンター、三潴B&G海洋センタープール、艇庫、三潴農村運動広場グラウンド、テニスコート、三潴ゲートボール場、城島体育館、城島テニスコート、城島ゲートボール場、城島ふれあい広場、城島トレーニングセンター 計12施設</p> <p>⑥田主丸地域の体育施設の指定管理（2年目）</p> <p>《指定管理者》 特定非営利活動法人 田主丸カル・スポクラブ</p> <p>《指定期間》 平成29年4月1日～平成34年3月31日（5年間） 田主丸地域の体育8施設を委託しているが、平成31年1月1日に「柳瀬サッカーコート」を廃止した。</p> <p>※平成29年7月の豪雨により大量の土砂が流入し、復旧の目途が立っていなかった当該施設について、地元、利用団体、指定管理者等と過去の利用状況及び今後の利用見込み等を踏まえた協議をし、当該施設を廃止した。</p> <p>管理施設 計7施設</p>	<p>①公益財団法人久留米市体育協会との連携</p> <p>前年度に引き続き、久留米市体育協会を通じて同協会の加盟協議団体の育成・活動の支援を行う。</p> <p>昨年久留米アリーナのオープンで大規模競技大会を誘致しやすい環境となったため、その他既存施設との連携により加盟団体を主体とした各種競技大会を開催し、競技スポーツの振興を図る。</p> <p>また、九州大会・全国大会に出場する個人及び団体に対し奨励金を交付することで、競技者・競技団体の意欲喚起を図る。</p> <p>②スポーツ推進委員・総合型クラブとの連携</p> <p>市の各種スポーツ事業において、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブとの連携を図る。</p> <p>○従事協力予定イベント（12事業）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①つつじマーチ、②紫灘旗全国高校遠的弓道大会、 ③クロスロードスポーツ・レクリエーション祭、 ④久留米オリンピック、⑤久留米ロードレース ⑥県民体育大会市町村対抗福岡駅伝 ⑦久留米市少年健全育成駅伝大会、 ⑧久留米つばきカップTT、⑨タレント発掘事業、 ⑩ユー・エス・イー・カップ国際女子テニス大会、 ⑪Eボートフェスティバル ⑫全国グラウンドゴルフ交歓大会 <p>③スポーツ推進委員数（令和元年9月1日現在）</p> <p>112名（定員113名）。日吉校区1名が欠員。 ※欠員に対しては、依頼を行っています。</p> <p>④スポーツ少年団</p> <p>スポーツ少年団の普及（登録促進）と育成及び活動の活性化を図り、青少年のスポーツを振興し、心身の健全な育成に資することを目的に活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の登録促進活動 ・リーダー研修会の実施 ・スポーツテストの実施 ・指導者及び団体への表彰事業の実施 ・各種大会及び教室の実施 <p>⑤三潴・城島地域の体育施設の指定管理（5年目・最終年度）</p> <p>《指定管理者》 九州ビルサービス・シンコースポーツ共同体</p> <p>《管理施設》 みづま総合体育館、三潴農業者トレーニングセンター、三潴B&G海洋センタープール、艇庫、三潴農村運動広場グラウンド、テニスコート、三潴ゲートボール場、城島体育館、城島テニスコート、城島ゲートボール場、城島ふれあい広場、城島トレーニングセンター 計12施設</p> <p>⑥田主丸地域の体育施設の指定管理（3年目）</p> <p>《指定管理者》 特定非営利活動法人 田主丸カル・スポクラブ</p> <p>《管理施設》 久留米市田主丸ソフトボール場、久留米市田主丸武徳館、久留米市田主丸多目的運動室、久留米市田主丸テニスコート、久留米市田主丸多目的グラウンド、久留米市田主丸体育館、東部運動公園 計7施設</p> <p>※平成31年4月1日から「久留米市田主丸勤労青少年ホーム」を「田主丸アリーナ」に名称を変え、体育施設として市直営での管理をしている。</p>

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>⑦久留米総合スポーツセンター施設の指定管理（1年目） 《指定管理者》ふくおかスポーツライフ創造パートナーズ 【代表団体】美津濃(株)（ミズノ） 【構成団体】イオンディライト(株)、(株)コナミススポーツクラブ、(株)西日本新聞イベントサービス</p> <p>《管理施設》 久留米市武道場、久留米市弓道場、久留米市野球場、補助競技場照明、テニスコート照明 計5施設</p> <p>※福岡県に対して市施設の管理に関する事務を委託</p>	<p>⑦久留米総合スポーツセンター施設の指定管理（2年目） 《指定管理者》ふくおかスポーツライフ創造パートナーズ 【代表団体】美津濃(株)（ミズノ） 【構成団体】イオンディライト(株)、(株)コナミススポーツクラブ、(株)西日本新聞イベントサービス</p> <p>《管理施設》 久留米市武道場、久留米市弓道場、久留米市野球場、補助競技場照明、テニスコート照明 計5施設</p>
<p>⑧久留米市体育施設の指定管理（2年目） 《指定管理者》公益財団法人 久留米市体育協会 《管理施設》 荘島体育館、西田体育館、西部地区体育館、旭町テニスコート、西田テニスコート、筑後川漕艇場、中千出公園夜間照明、大島公園夜間照明、西国分小学校夜間照明、荒木中学校夜間照明、山本運動公園、善導寺相撲場、北野体育館、北野武道場、北野テニスコート、北野グラウンド、北野ゲートボール場、北野筑後川グラウンド 計18施設</p>	<p>⑧久留米市体育施設の指定管理（3年目） 《指定管理者》公益財団法人 久留米市体育協会 《管理施設》 荘島体育館、西田体育館、西部地区体育館、旭町テニスコート、西田テニスコート、筑後川漕艇場、中千出公園夜間照明、大島公園夜間照明、西国分小学校夜間照明、荒木中学校夜間照明、山本運動公園、善導寺相撲場、北野体育館、北野武道場、北野テニスコート、北野グラウンド、北野ゲートボール場、北野筑後川グラウンド 計18施設</p> <p>□</p>
<p>⑨条例、規則の改正</p> <p>○体育施設条例の一部改正</p> <p>①久留米市柳瀬サッカーコートの廃止（平成31年1月1日） 地元、利用団体、指定管理者等と過去の利用状況及び今後の利用見込み等を踏まえた協議を重ねた結果、当該施設を廃止</p> <p>②久留米市野球場スコアボード使用料の改正（平成31年4月1日） 久留米市野球場の電光掲示板の改修工事に伴い、使用料を改正 旧：610円 → 新：990円（30分につき）</p> <p>③田主丸勤労ホームを体育施設に用途変更（平成31年4月1日） 「田主丸勤労青少年ホーム」を体育施設に用途変更し、「田主丸アリーナ」に名称を変更 ※ 使用料等は現状通り</p>	<p>⑨条例、規則の改正</p> <p>○体育施設条例の一部改正</p> <p>10月から消費税が10%に引き上げられることとなり、それに伴い、各体育施設の使用料を改正する。</p>

B 人づくり・健康づくり・地域づくりをめざす市民スポーツ事業の充実

子どもの体力・運動能力の向上を図るための事業展開や、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進する。

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>①各種スポーツ体験教室の開催</p> <p>○泳げない子どものための水泳教室 夏休み、春休み等を利用して、泳げない子ども（小学生）を対象とした水泳教室を開催した。 ・市主催1回、参加者31名 ・指定管理者主催5回、参加者99名</p> <p>○その他各種スポーツ教室 総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、指定管理者、県等と連携し市民ニーズに見合った教室を開催した。 ・パラリンピック種目体験会（1月）参加者100名 ・〃（3月）参加者30名</p> <p>②新たな高齢者スポーツ種目の普及 高齢者が心豊で健康な生活を送るため、身体を動かすことが必要不可欠であることから、年齢・体力に応じて気軽に参加ができる高齢者スポーツの普及を図るとともに、交流大会を開催した。より多くの高齢者がスポーツに親しむことができるよう、レベルや目的に応じて開催するとともに、地域に根ざした普及活動として、老人クラブを始めとする高齢者などに啓発活動を実施した。</p> <p>○高齢者スポーツ啓発事業（所管課：長寿支援課） ・のべ7箇所で開催（269名参加） 宮ノ陣中学校（54名）、みづま総合体育館（68名）、田主丸多目的運動室（33名）、桜花台体育館（48名）、南薫公民館（30名）、大善寺小学校（28名）、ウェブ21西国分クラブハウス（8名） （田主丸多目的運動室は2回開催） ・種目：ダーツ、カローリング、ディスコンなど</p> <p>*主催：久留米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会</p>	<p>①各種スポーツ体験教室の開催</p> <p>○泳げない子どものための水泳教室 夏休み等を利用して、泳げない子ども（小学生）を対象とした水泳教室を開催する。 ・市主催1回（予定） ・指定管理者主催5回（予定）</p> <p>○その他各種スポーツ教室 総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、指定管理者、県等と連携し市民ニーズに見合った教室開催を検討する。 ・パラリンピック種目体験会</p> <p>②新たな高齢者スポーツ種目の普及 前年度に引き続き、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会への受託事業を通して市内の高齢者を対象としたニュースポーツ等の普及を行う。（所管：長寿支援課）</p> <p>○高齢者スポーツ啓発事業（所管課：長寿支援課） ・7箇所で開催予定</p> <p>・種目：ダーツ、カローリング、ディスコンなど</p> <p>*主催：久留米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会</p>

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>③市民スポーツ推進事業 ○運動習慣づくり事業 総合型地域スポーツクラブ連絡協議会への補助事業を通して、日頃運動をしていない5人以上のグループを対象に、スポーツの指導経験を持つ講師を派遣した。 ・ニュースポーツ・ヨガ・ストレッチ等 計35回 参加者数延べ1,501人</p> <p>○トップアスリート選手強化事業 オリンピック・パラリンピックなどの国際大会で活躍することが期待できる久留米市ゆかりのジュニアアスリートが競技に専念できる環境整備の強化を図った。 ・認定者 17人</p> <p>○ジュニアアスリート競技力向上事業 トップアスリートを目指すニア世代に対して、日本代表選手やプロ選手などからレベルの高い指導を受ける機会を提供することにより、モチベーションの向上、怪我の防止、技術の上達を図り、将来のトップアスリート輩出の一助とする。30年度は、29年度の大会において優秀な成績を収めた競技及び県内にプロチームのある競技を中心に教室を開催した。</p> <p>【開催教室】 ①バスケットボール教室 8月2日 参加者：市内中学生38名 講師：ライジングゼファー福岡選手・コーチ ②ラグビーフットボール教室 8月19日 参加者：小・中・高50名 講師：元日本代表主将 ③柔道教室 12月1日 参加者：市内中・高生22名 講師：元日本代表選手・監督 ④野球教室 1月20日 参加者：市内学童軟式野球所属85名 講師：福岡ソフトバンクホークスOB ⑤サッカー教室 1月26日 参加者：市内中学生31名 講師：アビスパ福岡スクールコーチ3名 ⑥自転車教室 2月9日 参加者：市内小・中・高生14名 講師：元日本自転車競技連盟コーチ</p> <p>④観戦型スポーツイベントの誘致・開催 ○ユース・エス・イーカップ国際女子テニス（実績） 大会期間：5月13日～20日 観戦者数：延べ約3,312名 会場：新宝満川地区テニスコート</p> <p>○bjリーグ「ライジング福岡」公式戦（11月23日～24日） 対戦カード：ライジング福岡vs新潟アルビレックスBB 会場：久留米アリーナ 観戦者数：約1,600名（23日） 約1,400名（24日）</p> <p>⑤市民参加型スポーツイベントの開催 市民スポーツの振興とスポーツ機会の創出のため、市民が参加できるスポーツイベントを開催した。</p> <p>【主な開催イベント】 ○久留米つつじマーチ（4月開催 約15,000名参加） ○筑後川Eボートフェスティバル（9月開催 約600名参加） ○久留米オリンピック（10月開催 約3,500名参加）</p> <p>⑥イベント運営ボランティアの活用 スポーツへの関心を高めるため、スポーツイベントの運営において、学生や市民等のボランティアスタッフにご協力いただいた。</p> <p>○紫灘旗全国高校遠的弓道大会、Eボートフェスティバル 久留米オリンピック、久留米ロードレース 等</p>	<p>③市民スポーツ推進事業 ○運動習慣づくり事業 ・8月末日現在 12回 参加者数延べ174人</p> <p>○トップアスリート選手強化事業 2020東京オリンピック・パラリンピックに開催が1年を切る中、1人でも多くのジュニアアスリートに競技に専念できる環境整備を図りたい。 ・認定者 17人（別紙資料集P22参照）</p> <p>○ジュニアアスリート競技力向上事業 今年度もプロスポーツ選手や日本代表コーチなど、トップレベルのコーチによるスポーツ教室を実施し、ジュニア世代の競技力向上を目指したい。</p> <p>【開催教室】（予定） ・柔道教室 ・自転車教室 ・カヌー教室 ・サッカー教室 ・野球教室 ・バスケットボール教室 など</p> <p>④観戦型スポーツイベントの誘致・開催 ○ユース・エス・イーカップ国際女子テニス 大会期間：5月13日～19日 観戦者数：延べ約3,300名 会場：新宝満川地区テニスコート</p> <p>○bjリーグ「ライジング福岡」公式戦（1月24日～25日） 対戦カード：ライジング福岡vs愛媛オレンジバイキングス 会場：みづま総合体育館</p> <p>⑤市民参加型スポーツイベントの開催 市民スポーツの振興とスポーツ機会の創出のため、市民が参加できるスポーツイベントを開催する。</p> <p>【開催予定イベント】 ○久留米つつじマーチ（4月開催 約15,000名参加） ○筑後川Eボートフェスティバル（台風により中止） ○久留米オリンピック（陸上競技場改修工事のため中止）</p> <p>⑥イベント運営ボランティアの活用 スポーツへの関心を高めるため、スポーツイベントの運営において、学生や市民等のボランティアスタッフを公募し活用する。</p> <p>○紫灘旗全国高校遠的弓道大会、Eボートフェスティバル 久留米オリンピック、久留米ロードレース 等</p>

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>⑦健康づくり事業との連携推進</p> <p>○久留米市保健所主催の「ラジオ体操市民の集い」事業にスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブが連携し、各校区において広くラジオ体操の普及啓発に努め、市民の健康づくりを推進した。</p> <p>⑧その他の交流イベント等</p> <p>○筑後川旗・西日本学童軟式野球大会（7月） 前回大会に引き続き、姉妹都市・福島県郡山市より1チームを招待した。</p> <p>【招待チーム】 ・三穂田野球スポーツ少年団</p>	<p>⑦健康づくり事業との連携推進</p> <p>○久留米市保健所主催の「ラジオ体操市民の集い」事業にスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブが連携し、各校区において広くラジオ体操の普及啓発に努め、市民の健康づくりを推進する。</p> <p>⑧その他の交流イベント等</p> <p>○筑後川旗・西日本学童軟式野球大会（7月） 前回大会に引き続き、姉妹都市・福島県郡山市より1チームを招待する。</p> <p>【招待チーム】 ・郡山アスレックススポーツ少年団</p>

C 総合型地域スポーツクラブの育成

地域住民による主体的な地域スポーツの中心となる総合型地域スポーツクラブについて、普及啓発を図り、活動を支援する。

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>①久留米市総合型クラブ連絡協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回定例会開催 ・合同イベントの開催 （久留米フェスタ（50mダッシュ王選手権）等） ・アダプテッド・スポーツ事業の実施 ・高齢者スポーツ種目の普及 ・各種スポーツ体験教室の開催 	<p>①久留米市総合型クラブ連絡協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回定例会開催 ・合同イベントの開催 （久留米フェスタ（50mダッシュ王選手権）等） ・アダプテッド・スポーツ事業の実施 ・高齢者スポーツ種目の普及 ・各種スポーツ体験教室の開催

D 学校施設開放事業の充実

市民に身近な地域で気軽にスポーツに親しめるよう、学校施設を開放し、スポーツ活動の場としての利用を促進する。

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>①学校体育施設の開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内46小学校の運動場・体育館の開放 ○市内17中学校の運動場・体育館及び武道場の開放 ○特別支援学校の運動場・体育館の開放 <p>※上津児童体育館及び東部地区体育館は社会体育施設であるが、学校施設開放事業として扱っています。</p>	<p>①学校体育施設の開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内46小学校の運動場・体育館の開放 ○市内17中学校の運動場・体育館及び武道場の開放 ○特別支援学校の運動場・体育館の開放 <p>※上津児童体育館及び東部地区体育館は社会体育施設であるが、学校施設開放事業として扱っています。</p>

E 市民が活動したくなるスポーツ・レクリエーション施設の整備、拡充

市民のスポーツ活動のニーズや地域の状況を踏まえ、計画的に施設の整備や利便性向上に取り組む。

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>◆改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○久留米アリーナ周辺駐車場、照明工事 ○久留米市野球場電光掲示板、内野舗装、ラバーフェンス改修 ○田主丸ソフトボール場照明設備修繕 ○田主丸テニスコート人工芝張替 ○城島体育館・トレーニングセンター外壁等改修 	<p>◆改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○久留米総合スポーツセンターテニスコート照明改修 ○リバーサイドパーク駐車場案内サイン設置 ○西部地区体育館金属屋根部分修繕 ○山本運動広場シェルター設置

II スポーツによる自己実現及び競技者への支援

F アスリート支援、活性化方策の整備・充実

中学・高校を中心としたアスリートを支援し、競技スポーツを活性化するため、競技者への必要な支援を行う。

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>①県タレント発掘事業 体力・運動能力測定会 対象：小学4～6年生・中学1年生 期日：8月5日（日） 参加者：112名 会場：久留米アリーナ</p> <p>②市長表敬、教育長表敬の実施 <u>全国大会等への出場及び優秀な成績を収めた者・団体について、市長、教育長表敬を行った。</u> ・平成30年度：25件</p> <p>③スポーツ奨励賞・ジュニアスポーツ賞表彰 スポーツの実践、運営において優秀な成績を収められ、本市のスポーツ振興に貢献された功績に対して榮譽を称えるため市長表彰を行った。 ○スポーツ奨励賞（個人：8名、団体：5組） ○ジュニアスポーツ賞（個人：10名、団体：3組）</p> <p>④スポーツ功績賞 ○緒方良行氏 平成29年7月にポーランド・ヴロツワフで開催された「ワールドゲームズ2017（男子ボルダリング部門）」で優勝されたことに対し「久留米市スポーツ功績賞」を授与した。 ○相園健太郎氏 平成29年3月にアメリカ・ロサンゼルスで開催された「パラサイクリングトラック世界選手権1kmタイムトライアル」で2位の成績を収められた。</p>	<p>①県タレント発掘事業 体力・運動能力測定会 対象：小学4～6年生・中学1年生 期日：8月4日（日） 参加者：141名 会場：久留米アリーナ</p> <p>②市長表敬、教育長表敬の実施 全国大会等への出場及び優秀な成績を収めた者・団体について、市長、教育長表敬を行う。 ・令和元年8月末日現在：6件</p> <p>③スポーツ奨励賞・ジュニアスポーツ賞表彰 スポーツの実践、運営において優秀な成績を収めたものに対して表彰する。</p> <p>④スポーツ功績賞 スポーツの実践、運営において卓越した能力及び実績を有し、市民の誇りとして広く敬愛されたものに対して表彰する。</p>

G 久留米近圏におけるスポーツ競技環境の整備・充実

圏域全体のスポーツ活性化のため、九州・全国レベルのスポーツ大会の開催・誘致や広域的な連携を推進する。

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>⑤九州・全国レベル、広域的スポーツ大会の開催 ○紫灘旗全国高校遠的弓道大会 日程：8月18日～19日 出場：男女計79校 305名</p> <p>○クロスロードスポーツ・レクリエーション祭本選（5種目） 日程：11月11日 会場：基山町総合体育館ほか 参加：クロスロード地域住民（久留米、小郡、鳥栖、基山）544名</p> <p>※予選参加者：ふらばーボールバレー 8チーム ラージボール卓球 6チーム スポンジテニス 12チーム 室内ペタンク 15チーム T B G 35名 合計 239名</p> <p>○久留米ロードレース大会 日程：1月27日 会場：久留米総合スポーツセンター陸上競技場～百年公園 参加者：356名</p> <p>○九州地区2級・3級普及指導員グラウンド・ゴルフ研修交歓大会 日程：10月25日～26日 参加：九州各県より152名</p>	<p>⑤九州・全国レベル、広域的スポーツ大会の開催 ○紫灘旗全国高校遠的弓道大会 日程：8月17日～18日 出場：男女計89校 340名</p> <p>○クロスロードスポーツ・レクリエーション祭本選（5種目） 日程：11月10日 会場：小郡市体育館ほか 参加：クロスロード地域住民 約550名 久留米市予選会◆9月16日（月・祝） ・ラージボール卓球 5チーム ・T B G 34名 ◆9月23日（月・祝） ・ふらばーボールバレー 7チーム ・スポンジテニス 8チーム ・室内ペタンク 15チーム 合計 225名</p> <p>○久留米ロードレース大会 日程：1月26日 会場：久留米総合スポーツセンター陸上競技場～百年公園</p> <p>○全国グラウンド・ゴルフ交歓大会 日程：10月9～10日 出場：全国より約1,800名の予定</p>

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>⑥MICE誘致推進事業 【オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致】</p> <p>○基本合意書調印 7月24日、カザフスタン共和国の事前キャンプ誘致が決定し、オリンピック委員会、福岡県及び久留米市の3者による基本合意書調印式を実施。</p> <p>○キャンプに関する詳細協議 ケニア共和国及びカザフスタン共和国と、基本合意を踏まえて詳細協議を進める。</p> <p>○実行委員会の立ち上げ 7月30日、2020年に向けた準備や機運醸成事業等に取り組むため、「久留米市東京オリンピック・パラリンピックキャンプ等実行委員会」を設置。</p> <p>○機運醸成事業等の展開 新たな実行委員会及び市内ワーキンググループ内で検討し、各種事業を展開する。</p> <p>【大規模スポーツ大会誘致】</p> <p>○競技団体との連携 久留米アリーナのオープンを見据え、各競技団体と連携し、大規模スポーツ大会の誘致に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全日本実業柔道団体対抗大会 ・全日本9人制バレーボールクラブカップ選手権大会 ・車いすバスケットボール西日本大会 	<p>⑥MICE誘致推進事業 【オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致】</p> <p>○キャンプに関する詳細協議 ケニア共和国及びカザフスタン共和国と、基本合意を踏まえて詳細協議を進める。</p> <p>○2019カザフスタン強化キャンプ 本大会の前年にあたる2019年に、カザフスタンの強化キャンプを受入れ、ノウハウの蓄積及び受け入れ体制の強化を図る。</p> <p>○各種交流事業 ケニア共和国及びカザフスタン共和国とのスポーツ、文化、教育等の分野で交流を図る。</p> <p>○PR・イベント 市内各所で事前キャンプをPRするとともに、各種イベントにおいてオリパラ関連企画を実施する。</p> <p>○協賛事業 機運醸成及び財源確保を目的に、協賛金を公募する。</p> <p>【大規模スポーツ大会誘致】</p> <p>○競技団体との連携 久留米アリーナをはじめ市内体育施設を活用し、各競技団体と共に、大規模スポーツ大会の誘致に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松宮賜杯全国軟式野球大会（9月） ・全国グラウンドゴルフ交歓大会（10月）

Ⅲ 学校における体育・スポーツのあり方

小中学校の体育授業の充実や児童生徒の運動能力の向上並びに部活動の活性化に取り組む。

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>①体力向上1校1取組運動の実施</p> <p>②全国体力・運動能力・運動習慣等調査（小5・中2で実施）</p> <p>③福岡県体力・運動能力等調査（小・中全学年で実施）</p> <p>④小中学校の全児童生徒に体力アップシートの配布（県）</p> <p>⑤福岡県子どもの体力向上広場（スポコン広場）への参加</p> <p>⑥外部指導者研修会の実施（中体連）</p> <p>⑦学校登録外部指導者の活用推進及び保険加入</p> <p>⑧福岡県小学校体力向上指導者研修会の実施（県）</p> <p>⑨中体連の運営費や各種大会等への助成</p> <p>⑩中学校入学説明会で小学校6年生の部活動見学・体験を実施</p> <p>⑪オリンピック・パラリンピック教育の推進（県）</p>	<p>①体力向上1校1取組運動の実施</p> <p>②全国体力・運動能力・運動習慣等調査（小5・中2で実施）</p> <p>③福岡県体力・運動能力等調査（小・中全学年で実施）</p> <p>④小中学校の全児童生徒に体力アップシートの配布（県）</p> <p>⑤福岡県子どもの体力向上広場（スポコン広場）への参加</p> <p>⑥外部指導者研修会の実施（中体連）</p> <p>⑦学校登録外部指導者の活用推進及び保険加入</p> <p>⑧福岡県小学校体力向上指導者研修会の実施（県）</p> <p>⑨中体連の運営費や各種大会等への助成</p> <p>⑩中学校入学説明会で小学校6年生の部活動見学・体験を実施</p> <p>⑪オリンピック・パラリンピックムーブメント調査研究推進校（県）</p> <p>⑫オリンピック教室（国）</p> <p>⑬久留米市部活動方針の策定</p>

IV スポーツ振興のための各種指導者の養成と有効活用

スポーツ指導者について、必要な人材の養成を推進し、資格を有する指導者の増加とその有効活用を図る。

H30年度（実績）	R元年度（計画）
<p>①スポーツ指導者養成推進事業 スポーツの指導者として必要な知識や指導手法等に関する講習を実施した。</p> <p>○子どもの体力向上研修会： 「幼児の体力向上のための運動・表現遊び」 久留米市主催により開催。 対象は市内の保育士、幼稚園教諭等43名の参加。</p> <p>○スポーツ医科学講座：「障害予防の評価と改善法」 久留米市体育協会主催により開催。 各競技団体、スポーツ少年団、小中高教諭、スポーツ推進委員等30名の参加。</p> <p>②各競技団体の選手及び指導者育成・指導事業 久留米市体育協会加盟競技団体の選手及び指導者を育成するために講習会を開催した。 ○ハンドボール実技講習会 参加者 15名</p> <p>※その他久留米市体育協会加盟団体が独自で講習会を実施</p>	<p>①スポーツ指導者養成推進事業 スポーツの指導者として必要な知識や指導手法、保育園等の幼児・児童への運動指導等に関する講習・研修を実施する。</p> <p>○子どもの体力向上研修会： 「幼児の体力向上のための運動・表現遊び」 久留米市主催により開催。 対象は市内の保育士、幼稚園教諭等47名の参加。</p> <p>○スポーツ医科学講座 久留米市体育協会主催により開催。 各競技団体、スポーツ少年団、小中高教諭、スポーツ推進委員等の参加を予定。</p> <p>②各競技団体の選手及び指導者育成・指導事業 久留米市体育協会加盟競技団体の選手及び指導者を育成するために講習会を開催する。 ○ハンドボール実技講習会</p> <p>※その他久留米市体育協会加盟団体が独自で講習会を実施</p>

(2) 久留米市スポーツ振興基本計画の総括について

・別紙資料1

(3) 次期計画の策定について

①久留米市教育委員会からの諮問について

(別紙で諮問書を第一回審議会当日に配布予定)

②久留米市スポーツ推進計画の策定について

1 国・県の状況

<1> 国は平成23年に、スポーツを行なう人の権利などを基本理念とした「スポーツ基本法」を策定し、スポーツ振興政策を展開してきました。平成27年には「スポーツ庁」を発足させ、スポーツの国際化や競技レベルの向上、スポーツの多様化等スポーツを取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、平成29年に「第2期スポーツ基本計画」を策定しました。同計画で、スポーツの主役は、国民であり国民に直接スポーツ機会を提供するスポーツ団体等であるとし、国民、スポーツ団体、民間事業者、地方公共団体、国等が一体となって施策を推進していくことで、「スポーツ参画人口」の拡大を図るとともに、「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことが基本方針として示されました。

<2> 福岡県は、平成26年に「福岡県スポーツ推進計画」を策定しました。その後、国における「第2期スポーツ基本計画」の策定や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催などを踏まえ、平成30年3月にスポーツの力で県と県民生活をより元気にする「スポーツ立県福岡」の実現に向けた計画の見直しを行いました。

2 基本的な考え方

計画策定では国や県の状況を踏まえながら、久留米市新総合基本計画の第4次基本計画との連動性・整合性を確保するとともに、久留米市スポーツ推進審議会での協議により計画案を作成します。

また、次期計画の対象期間は、令和2年度～令和7年度までの6年間とします。

◆ 取り組みの視点 ◆

- ①年代や性別などに関わらず、誰もがライフステージに応じて身近な地域で取り組めるスポーツ・健康づくりの機会の充実
 - ②市民のスポーツ意識の向上やスポーツ観戦意欲の増進を目的とした施策の推進
 - ③市民のスポーツ競技力の向上及びスポーツを支える人材・指導者の育成・確保
 - ④誰もが気楽にスポーツに親しむための施設利用環境の整備・充実
 - ⑤大規模スポーツ大会の誘致による地域の活性化
- など

3 久留米市スポーツ推進計画策定スケジュール(案)

年	月	体スポ(事務局)	審議会	市議会・教育委員会
H30年度	1	くるモニアンケート		
	2			
	3			
R元年度	4	新計画(案)作成		
	6	市民意識調査		
	7	【審議会委員変更】(市議)		教民(所管事務調査)
	8			
	9			
	10	諮問(教育長→審議会) 審議会意見集約・修正	【第一回】 ①現計画の総括 ②諮問 ③次期計画 ④意見聴取	
	10 下旬	審議会意見集約・修正	【第二回】 ①次期計画の基本方針・骨子 ②意見聴取	
	11	審議会意見集約・修正	【第三回】 ①次期計画の事業 ②意見聴取	
	12	パブリックコメント	【第四回】 ①計画(案)確定 ②意見聴取	教民 計画(案)の提案
	1	【審議会委員改選】		
2				
3	答申(審議会→教育長)	【第五回】①計画(案)確定	教民(報告) 計画答申案の議案提出 パブコメ報告	

久留米市スポーツ振興基本計画の総括について

(平成 19 年度～令和元年度) 平成 25 年度中間見直し

目 次

1	計画の概要	1
	(1) 計画の趣旨	
	(2) 計画達成に向けた取り組み	
2	現計画の総括	2
3	各政策の目標達成状況	3
	○成果指標と目標及び実績	
	(1) 週 1 回以上の運動・スポーツ実施率	
	(2) 全国大会等優勝者・団体数	
	(3) 体力・運動能力調査 (小 5・中 2)	
	(4) 講習会・研修会受講者数	
4	政策ごとの検証及び総括	6
	【政策 1】市民が躍動できる生涯スポーツ振興体制の整備・充実	
	【政策 2】スポーツによる自己実現及び競技者への支援	
	【政策 3】学校における体育・スポーツのあり方	
	【政策 4】スポーツ振興のための各種指導者の養成と有効活用	

1 計画の概要

(1) 計画の趣旨

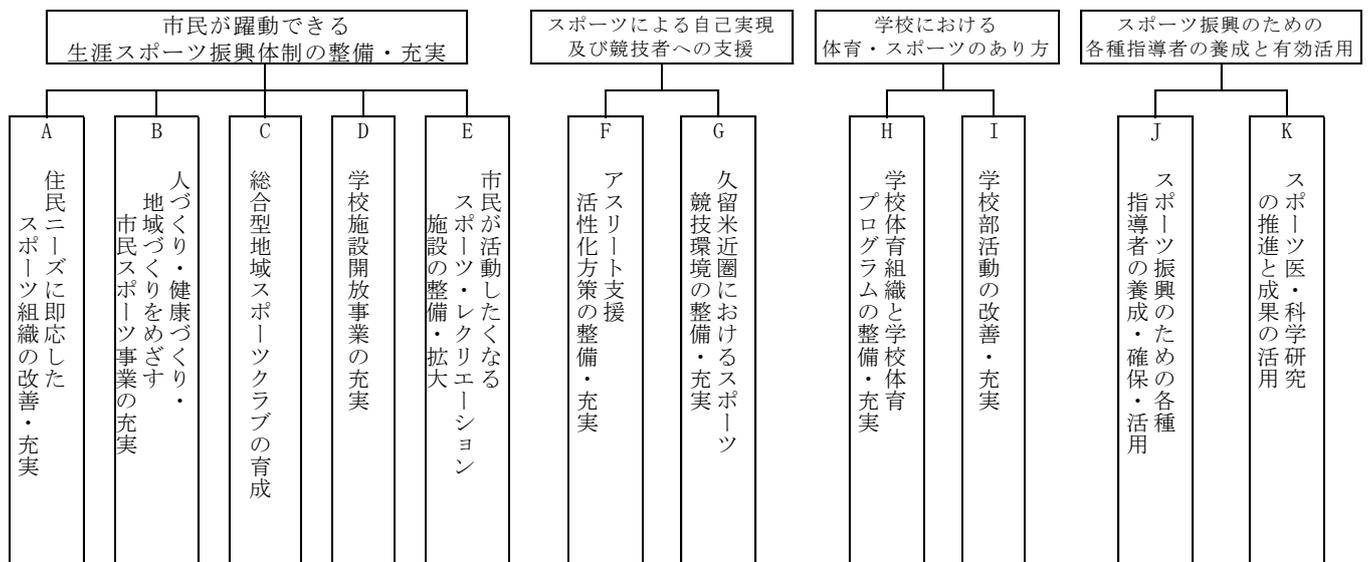
久留米市では、平成19年3月、「久留米市スポーツ振興基本計画」を策定し、「活力あふれる市民スポーツの振興と豊かなスポーツライフの創造・地域づくり」を基本理念に、「いつでも・どこでも・誰でも」がスポーツに親しむことができるスポーツ都市づくりのため、さまざまな取り組みを進めてまいりました。その後、平成23年6月の「スポーツ基本法」の成立や、平成24年3月の「スポーツ基本計画」の策定など、国の方針や久留米市のスポーツ行政における現状と課題を踏まえ、平成25年3月に同計画の事業体系を見直し、スポーツ実施率の低迷や子どもの体力低下などの諸課題の解決につながる事業を今日まで展開してきました。

(2) 計画達成に向けた取り組み

現計画では、「市民が躍動できる生涯スポーツ振興体制の整備・充実」「スポーツによる自己実現及び競技者への支援」「学校における体育・スポーツのあり方」「スポーツ振興のための各種指導者の養成と有効活用」を4つの政策、11の施策を体系化しています。その中で、行政関係部局のみならず、スポーツ関係機関・団体をはじめ、市民や地域、学校などとも密接に連携を図りながら一体的な取り組みを推進しています。

スポーツ行政活動の体系

【4つ政策・11施策】



2 現計画の総括

現計画の最終年度を迎えるにあたり、これまでの取り組み状況の確認、計画の達成状況の把握を的確に行うとともに、社会情勢の変化や国・県のスポーツ基本計画の見直し状況などを参考にしながら、次期計画へとつなぐため今回、現計画の総括を行います。

現計画では、「活力あふれる市民スポーツの振興と豊かなスポーツライフの創造・地域づくり」を基本理念として、「スポーツによる生きがいと輝きが共有できる都市」「健康に満ちた市民の笑顔があふれる都市」「共汗・共育・交流のスポーツクラブ文化が薫る都市」の3項目を目指す都市像に掲げ、スポーツの振興に取り組んでまいりました。取り組みにあたっては、「市民が躍動できる生涯スポーツ振興体制の整備・充実」をはじめとする4つの政策ごとに事業展開の状況を分かりやすく示す指標を設定し、取り組んできたところです。いずれの政策体系におきましても目標を達成できており、各取り組みがほぼ計画通り順調に進んでいる状況です。

具体的には、2018（平成30）年6月に県南のスポーツ施設の中核を担う「久留米アリーナ」をオープンするなどして市民や競技団体等の利用を促進するとともに、全国大会等の大規模大会の誘致開催を行いやすい環境整備を行いスポーツの振興を図ることができました。

また、2020（令和2）年の東京オリンピック・パラリンピックの開催にあたり、ケニア共和国とカザフスタン共和国の事前キャンプを誘致し、スポーツに対する機運がますます高まりをみせているところです。

さらに、小中学校と連携し体力向上プランの作成・実践に取り組むことで、子どもたちの運動能力及び体力の向上を図るとともに、市民のスポーツ活動を支える指導者等の養成やトップアスリートの支援などにより、地域のスポーツ人材の育成を進めることができました。

しかし一方で、少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化により、生涯スポーツや健康づくりへの関心が高まりを見せ、スポーツを通じた生きがいづくり、大規模スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致による人的交流など、多岐にわたる役割がスポーツに求められるようになりました。

そこで、スポーツの持つ可能性を最大限に活かし、多くの市民がスポーツに親しみ、健康で明るい生活を送ることができるよう、スポーツへの参加機会の拡大を図るとともに、スポーツ観戦につながる情報発信、また、スポーツ指導者人材の育成を図るなど、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で参画することで、それぞれの人生がいきいきとしたものになることが今後期待されているところです。

3 各政策の目標達成状況

現計画における政策ごとの目標達成状況は、次のとおりです。

(1) 【政策名】市民が躍動できる生涯スポーツ振興体制の整備・充実

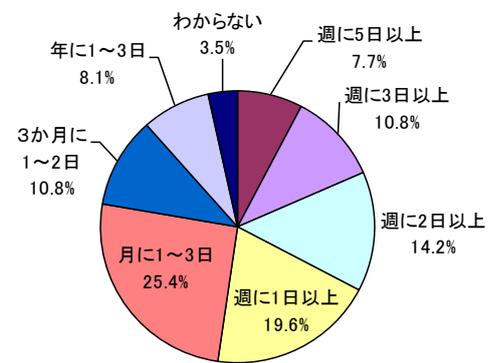
【成果指標】	H23	目標	(H30実績)
週1回以上の運動・スポーツ実施率	36.1% (H24)	50%	52.3%

市民の生涯スポーツ振興については、市民が運動・スポーツに親しむためのきっかけづくりとなる各種事業をはじめ、見るスポーツとしてプロスポーツや九州・全国レベルの競技大会の誘致等に取り組みました。

また、地域においては、校区のスポーツ推進委員や7つの総合型地域スポーツクラブとの協働により地域のスポーツの振興に取り組むとともに、スポーツ施設の整備・改修や小中学校の施設の開放を行い、スポーツしやすい環境づくりに努めました。

この政策の成果指標である週1回以上の運動・スポーツ実施率の向上を目指した各種取り組みにより、市民の運動習慣としてウォーキングを行う市民の割合が平成23年から15.5ポイント増加するなど、「週1回以上の運動・スポーツ実施率」は平成23年調査時点よりも16.2ポイント上昇しています。

この1年間に運動・スポーツを行った日数



(2) 【政策名】スポーツによる自己実現及び競技者への支援

【成果指標】	H23	目標	(H30実績)
全国大会等優勝者・団体数	計 12	計 15	計 26

スポーツによる自己実現・競技者への支援については、アスリートの競技力向上のため、スポーツ競技環境の充実、スポーツ指導者の資質向上の取り組み、スポーツイベントの誘致等を図るとともに、大会で優秀な成績を収めた個人やチームについては表彰などを行いました。

なお、全国大会等への出場者、市長表彰の状況としては、継続的に表彰者を輩出している柔道、自転車、カヌー、弓道に加え、最近では東京2020オリンピック競技大会において、初めて競技種目となる空手やボルダリングなどにおいても新たな全国大会優勝者が出ている

状況となっております。

また、平成27年度に表彰規程を見直し、これまで全国大会での優勝者のみを対象としていた小中学生に対し、全国大会3位以上若しくは九州大会での優勝者まで表彰の枠を広げるなど、より多くの成績優秀者を表彰し、選手のモチベーションの向上に努めております。

【全国大会等優勝者 市長表彰実績】

(単位：件)

		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
個人	高校生以上	9	5	8	7	8	5	15	8
	小中学生	2	2	2	3	14	9	8	10
団体	高校生以上	1	0	2	1	3	3	5	5
	小中学生	0	0	0	0	5	7	1	3
計		12	7	12	11	30	24	29	26

※市体育スポーツ課調べ

(3) 【政策名】学校における体育・スポーツのあり方

【成果指標】	H23	目標	(H30実績)
体力・運動能力調査(小5・中2)	全国平均以下	全国平均以上	全国平均以上

学校における体育・スポーツについては、全小中学校で作成している体力向上プランに基づいた取組を継続し、平成24年度からの中学校武道必修化に対応するための武道場の整備及び教員への研修等を実施しました。

児童生徒の体力・運動能力は、平成18年度と平成30年度を比較すると概ね向上するとともに、全国平均を上回っています。また、運動部活動の加入率は全国平均以上を維持しています。

成果指標である体力・運動能力調査(小5・中2)では、平成23年度に全国平均以下でしたが、全小中学校において、課題克服のための「1校1取組運動」を含む体力向上プランに基づく計画的な取組を進めたこと等により、目標を達成することができました。

【体力・運動能力調査】

		50m走 (秒)		立幅跳び (cm)		ソフトボール・ハンドボール投げ (m)	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
9 歳	H18 久留米市	10.02	10.18	147.6	154.4	22.1	14.4
	H23 久留米市	9.88	10.29	142.9	132.7	21.2	12.3
	H30 久留米市	9.30	9.58	153.4	147.0	23.8	14.4
	H30 全国平均	9.37	9.60	152.2	145.9	22.1	13.8
13 歳	H18 久留米市	8.10	9.70	—	—	21.4	12.8
	H23 久留米市	8.14	8.98	196.7	167.2	21.2	13.1
	H30 久留米市	7.96	8.84	198.6	174.4	20.9	12.8
	H30 全国平均	7.99	8.78	195.6	170.3	20.1	13.0

※市教育委員会調べ

(4) 【政策名】 スポーツ振興のための各種指導者の養成と有効活用

【成果指標】	H23	目標	実績)
講習会・研修会受講者数	延べ 956 人 (H20～23)	延べ 1,100 人 (H25～28)	延べ 1,617 人 (H25～28)

各種指導者の養成と有効活用については、スポーツ指導者養成講習会でのスポーツ知識・指導技術の周知や、日本体育協会公認資格も取得できる講習会開催による資格取得者の養成により、着実にスポーツ指導者の資質向上に努めました。

【指導者講習会受講者実績】

単位：人

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
受講者数	441	469	322	385	255	364
H25～H28延べ 1,617名						
			H27～H30延べ 1,326名			

4 政策ごとの検証及び総括

現基本計画の目標の達成状況や、久留米市新総合計画第3次基本計画における政策評価の結果等を踏まえ、計画を構成する各政策毎に現基本計画の成果と課題を次のとおり総括し、次期基本計画の策定にあたっての「基本的な考え方」として、計画への反映を図ります。

【政策1】市民が躍動できる生涯スポーツ振興体制の整備・充実

事業計画	主な取り組みと成果
総合的・効果的に市民スポーツを推進するため、市体育協会や各競技団体、大学等との連携を図るとともに、総合型クラブやスポーツ推進委員との協働により事業を推進する。	○市体育協会等と情報共有しながら連携を深め、スポーツ関連情報の発信を強化しました。 ○スポーツ推進委員等と連携し、各団体の組織充実に向けた研修会を行うことで地域スポーツの活性化が図られました。
あらゆるライフステージに応じてスポーツ活動に親しめるよう様々な事業を実施する。 また、総合型地域スポーツクラブの創設やその活動を協働の視点から支援する。	○各種スポーツ教室等の実施により、幅広い年代の市民が気軽にスポーツに取り組む契機となりました。 ○総合型地域スポーツクラブへの支援や連携により、地域スポーツの活性化に寄与しました。
市民が身近な場所でスポーツに親しめるよう、また、学校施設の有効活用という観点から、学校施設を市民に開放し、市民の主体的な活動を促進する。	○全小中学校での学校施設開放事業実施により、子どもから大人までがスポーツに取り組みやすい環境づくりが促進されました。
市民のスポーツ活動のニーズや地域の状況を踏まえ、計画的に施設の整備に取り組むとともに、施設の利便性向上を図る。	○「久留米アリーナ」や「東部運動公園」等を整備し、多くの市民がスポーツに取り組むことのできる施設環境が充実しました。

◆ 今後の課題 ◆

①市民が気軽にスポーツ・健康づくりに取り組める環境の整備

年代や性別などに関わらず、多くの市民が健康の保持増進や体力向上など、生きがいを持ってスポーツ・健康づくりを行えるよう、引き続き関係団体・機関等との協働・連携しながら各種事業に取り組み、運動・スポーツ実施率のさらなる向上を図っていく必要があります。

②スポーツ施設の機能確保

市民スポーツのニーズや地域の実情を踏まえ、施設の適切な維持管理を行うとともに、計画的な修繕を行っていく必要があります。

【政策2】スポーツによる自己実現及び競技者への支援

事業計画	主な取り組みと成果
<p>中高生を中心としたアスリートを支援し、競技スポーツを活性化するため、中・高体連及び市体育協会や競技団体等との連携を強化する。</p>	<p>○中高生のトップアスリートに対し活動費をはじめ様々な支援を行うことで、競技環境の向上が図られました。</p> <p>○大会での成績優秀者に対し各種表彰や積極的なPR活動を行うことで、選手の支援を図りました。</p>
<p>九州・全国レベルのスポーツ大会の開催・誘致を行う。</p> <p>また、久留米圏域にあるプロスポーツ資源を活かした事業を実施する。</p>	<p>○久留米アリーナ等の整備により、大規模大会を誘致・開催できるようになり、競技レベルの向上及び地域スポーツの活性化が図られました。</p> <p>○東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおけるケニア共和国・カザフスタン共和国の事前キャンプを誘致することができました。</p> <p>○福岡県内のプロチームによるスポーツ教室を開催し、多くの市民がスポーツに親しむことができました。</p>

◆ 今後の課題 ◆

① トップアスリートへの支援

久留米市にゆかりのある中高生を対象に「トップアスリート支援事業」を実施し、試合や練習などに要する経費について支援していますが、今後もより競技に専念できる環境を整備するための支援策が必要であります。

② 大規模大会やプロスポーツの試合などの誘致による地域活性化

久留米アリーナの整備による効果を最大限に発揮させるため、大規模大会等の誘致による地域活性化についての取り組みを行う必要があります。

③ ケニア共和国・カザフスタン共和国の事前キャンプの円滑な実施と成果の活用

東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおいて、両国の事前キャンプを円滑に実施し、その成果をレガシー（遺産）として、最大限に活用した取り組みを行う必要があります。

【政策3】学校における体育・スポーツのあり方

事業計画	主な取り組みと成果
<p>体育授業の充実や児童・生徒の運動能力向上のため、外部指導者等を活用したスポーツ教室の開催など、各種施策に取り組む。</p>	<p>○全小中学校で、体力向上プランを作成し学校全体で取り組む「1校1取組運動」を実践することで、子どもたちの運動能力及び体力の向上を図りました。</p> <p>○各中学校に武道場を整備し、計画的に教員への研修を実施したことで中学校武道必修化に対応できました。</p>
<p>学校部活動の活性化や部員の増加を図るため、指導者の派遣や学校間の交流など、魅力向上に取り組む。</p>	<p>○外部指導者に対する研修や保険加入などにより、その活動環境の充実・改善を図ることで、部活動への加入促進の取り組みを行いました。</p>

◆ 今後の課題 ◆

① 児童生徒の体力・運動能力の向上

子どもの体力は30年前と比較すると依然として低い状態が続いています。本市では体力・運動能力調査において、平成30年度の結果は全国平均と比較すると総じて上回ってはいるものの、今後も引き続き体力・運動能力の向上に向けた取り組みが必要です。

② 部活動への加入促進

部活動は、体力向上はもちろん、生徒同士や教師との人間関係の構築など生徒の多様な学びの場としてその教育的意義は大きいものがあります。本市では現在70%前後の加入率であり、全国平均と比べると継続的に上回っていますが、今後も部活動への加入を促進する取り組みを引き続き行っていく必要があります。

【政策4】スポーツ振興のための各種指導者の養成と有効活用

事業計画	主な取り組みと成果
<p>「スポーツを支える（育てる）人」の重要な要素の一つであるスポーツ指導者について、地域住民や競技団体等のニーズを踏まえつつ、必要な人材の養成を推進する。</p>	<p>○スポーツ推進委員に対し各種研修会を行なうことで、地域のスポーツリーダーとしての育成が進みました。</p> <p>○関係団体等と連携し講習会などを実施することで、指導者の資質向上が図られました。</p>
<p>生涯スポーツの推進や、トップアスリートの競技力向上のため、大学等と連携したスポーツ医科学研究の推進を図る。</p>	<p>○幼少期から運動スポーツに慣れ親しみが持てるよう保育園・幼稚園の職員向けの講習会を開催するなど、子どもから大人まで多くの市民が生涯スポーツへの資質の向上に寄与できました。</p> <p>○スポーツ指導者に対し大学と連携し選手へのコンディションづくり等の講座を開催し、トップアスリートへ支援を図りました。</p>

◆ 今後の課題 ◆

①効果的な指導者講習会の実施

各種講習会の受講者数は、テーマや内容により大きく変動があるため、指導者の資質向上に役立つ魅力的な講義を検討していく必要があります。

また、講義内容等を十分に活用する仕組みが確立されていない面も見受けられるため、その仕組みづくりが必要であります。

②スポーツ医学を活用した競技者への支援

大学の専門的な知識を活用した講座の開催で指導者及び選手への支援を行っていますが、今後も他の支援策等についても取り組む必要があります。